

理想の家庭と子女の教育

芙 蓉 生

世の中に理想と現實との差違程甚だしく相違のあ
るものは他にないと云ふてもよい位でせう。殊に
其中でも理想の家庭と現實の家庭との相違は亦實
に非常なものであると云ふことが出來ます。世上
幾多の青年處女は果して此邊の考があるのでせう
か。吾々が常に耳にする處では夫妻の相愛は即ち
理想の家庭の唯一原素であるかの様に聞えます。
従つて理想の家庭とし云へば即ち直に新婚旅行の
夢の如き樂しみや、すみれ花咲く春の野遊などが
其主なるもの、様で誠に罪もなくたわいもない
ものであります。勿論夫妻の相愛は家庭の要素で
あり基礎となる可きものには違ひありませんが併
し是ばかりを夢みて居てはいざとなつては失望す

ること許り多いだらうと思ひます。家庭は確かに
人生の樂土であると同時に人生の最苦限場とも云
ふことの出來るものです。然るに理想の家庭なる
空想中に唯其愉快なる方面のみ畫かれて頓と其苦
しみとなる可き方面の實際的想像が少しも加はつ
て居りませんでは其理想は全く實現し得られざる
空想に過ぎないと云ひませう。斯く申ましたら
或は斯様な苦しみ多き家庭は理想するに及ばぬ理
想の家庭と云ふ以上は樂しく愉快なる可き筈では
ないかと云はれるかも知れませんが、夫れは黃金
時代の家庭即ち家庭なるもの、絶體的空想と今近
き將來に於て此不足多き世の中に於て實現せんと
する實際的想像とを混合するもので誠に不健全な
る思想だと思ひます。吾人は世の青年處女諸君が
彼絶躰的空想を去つて此實際的想像を盛んに作ら

れんとを希望します。而して既に實際的想像と云ふ以上は其中に子女教養に關する想像が當然加はる可きものだと思ひます。已れの子女は如何なる目的を以て如何なる方法に依て教養す可かは甚だ興味ある問題たると同時に頗る困難なる問題であります。然るに従來の家庭の理想に此方面の研究の足らないのは頗る不健全な次第であります。所謂ハイカラ女學生流に考へたらリボンと洋服で唯もを美しく、飾り立てたら夫れで最早充分と思ふて居るかも知れませんが實際は中々困難なもので云ふことよく聞く様に仕向けなければ云ふことは聞かず、絶えざる注意と不斷の勇氣とがなければ一つの良習慣も形成することは出来ず、其困難と心配とは一通り二通りではないのであります。逆も女學校の補習科で一二冊ばかりの教育書を見

たからとて決して賢母で候とは申された義理ではありませぬ。然も世の母たり妻たらんとして居る女學生諸君には果して此邊の考がありませうか。甚だ覺束ないことであります。何故となれば彼の忌はしき空想は子女教養の上にも行はれて單純なる教育書上の議論や理屈が直に譯もなく行はるゝものと思ひ込むのが普通の有様で其實行上に於ける諸種の故障や妨害には頓と氣が付かず況んや不注意の中に何時しか養はれた惡習慣は如何にして取除く可きか、思はぬ結果を生じた事項は如何に處置す可きか、家庭に起る日々の事件が兒童の心身に如何なる影響を與ふ可きが等に就ては殆んど夢中と云つてもよい位なものですもの、斯様な事で何うして理想の家庭が現實されませうか。夫妻の相愛は家庭の基礎であり、結組織たる

には相違ありませんが然も其現實さるゝや必ず家政整理と子女教養との二方面を離れて存することはありません。従つて家庭なるものゝ完全なる理想は如何に家政は處理す可きか、如何に子女は教養す可きかに就て充分研究したる後に於て初めて成立す可きもので決して樂しき遊びや、たわひもなき戯れを夢みることに因て家庭を理想することは出来ないものであります。既に家政整理と子女の教養とが家庭理想の二大方面である以上は彼家庭を離れて雜風景な下宿屋生活乃至は牢屋の如き寄宿舎住居をして居る星やすみれのハイカラ女流に完全な家庭的理想を以つたものゝないとは明かな事ではありませんか。是に至つて吾人は今日のハイカラ女流者は到底良妻賢母の候補者たる資格なきものと斷言するに憚らざると同時に今後の

女子教育が今一層此方面に適切ならんことを望みます。此思想より論ずると云と彼高等女學校に於ける家事科中の育児法は餘りに狭く餘りに一局部に偏するものと云ふことが出来ます。吾人は尙進んで幼児教育、兒童教育の一般は勿論能ふ可くんば青年男女の監督指導論をも四ヶ年程度の高等女學校に必須科として科せられんことを望むものであります。

貞一の日記(承前)(明治三十六年)

拔萃(五月生男兒)

その母

四月廿日、夜眠る前、床の中にて、「貞ちやん、大きくなつたら、學校へいつて、學校の兄さんとお相撲とる、母さんも、大きくなつたら、學校へいつて、おすまふとる」といふ、貞一にして